

① 題：「試練と喜び」(30 分)

220129

説教者 : 花田憲彦
聖書朗読 : 使徒行伝 5 章 41、42 節
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『患難から栄光へ』第 8 章より

「過去において、キリストのために迫害を受けてきた人々が持っていた力は何であったのか。それは、神との一致、聖霊との一致、キリストとの一致であった。多くの者は、そしりと迫害によって、地上の友から引き離されたが、キリストの愛からは引き離されていなかった。魂が、あらしに悩まされ、真理のためにそしりを受ける時ほど、救い主の愛を深く受ける時はない。『わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』とキリストは言われた。信者が真理のためにこの地上の法廷に立つ時、キリストは彼のそばにお立ちになる。彼が牢獄の中に閉じ込められる時、キリストは彼にあらわれてその愛によって彼の心を励まされる。彼がキリストのために死刑を受ける時、救い主は、人々は肉体を殺すことができても、魂を損なうことはできないのだと、彼に言われる」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 261 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 378 番

② 題：「助けてください」(42 分)

220820

説教者 : 森田栄作
聖書朗読 : 使徒言行録 16 章 9、10 節
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『患難から栄光へ』上巻 236 頁

「地上のすべてのものの終わりが急速に近づいているこの現代において、サタンはこの世界を陥れようと必死の力を振りしぼっている。彼は人々の心を占領して、救いに欠くことのできない真理から注意をそらそうと、いろいろの計画を案出している。どの町でも彼の手下どもは、神の律法に反対する人々に徒党を組ませようと、懸命になっている。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 366 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 236 番

③ 題：「絶えず祈りましょう。しかし……」(29 分)

220827

説教者 : 長谷川 徹
聖書朗読 : 詩篇 145 篇 1、2 節
瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『教会への証』5 巻 317 頁

「願うことと受け取ることだけが、私たちの個人的な礼拝の全てになっていないでしょうか。……もし、神の慈愛に対しより多くの感謝と賛美をささげていたなら、私たちの祈りはさらに力強いものとなっていたことでしょう。……熱心に、絶えず祈りましょう。しかし、賛美をすることを忘れてはいけません。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 28 番
終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 129 番

◆お知らせ

アドベンチストメディアセンターホームページ (<http://www.adventistmedia.jp/video/worship/>) に礼拝プログラムのファイルを公開しております。週報の作成などご利用ください。